

日本プロセス化学会第 25 回理事会議事録

日時 2013 年 7 月 17 日(水) 15 時 30 分～17 時 15 分

場所 つくば国際会議場 小会議室 304 号室

将来計画委員会日景尚睦氏と記録者山本康友氏が参加した
出席 20 名+記録係 1 名(山本)、計 21 名参加
武田薬品 橋本理事の代理として山野氏が参加

議題

1 確認・報告事項

- (1) 第 24 回理事会議事録(2012 年 12 月 19 日 HP 掲載)が承認された。
- (2) 2013 サマーシンポジウム準備状況が加藤敏久理事より報告された。
事前参加登録 574 名、ポスター発表 86 件、情報交換会参加事前申込者 300 名超
- (3) 2013 ウィンターシンポジウム 11 月 28, 29 日(木金)仙台市民会館準備状況が鴻池敏郎副会長より報告された。
新学術領域研究「有機分子触媒による未来型分子変換」(領域代表 寺田眞浩 東北大学教授)との合同シンポジウムを計画する。事務作業は有機分子触媒事務局に依頼、情報交換会参加費は独立採算できる料金設定となる。
- (4) 2014 サマーシンポジウム 7 月 31 日-8 月 1 日タワーホール船堀準備状況が間瀬俊明理事より報告された。
招待講演は 10-11 演題(アカデミアからは 5 件)、海外企業からの話題、メディシナルケミストからプロセスケミストへの提言、を計画している。
- (5) 第 8 回プロセス化学ラウンジ 2013 年 12 月 5, 6 日(木金)湯河原準備状況が日程、予算ともに例年通りであると鴻池敏郎副会長より報告された。
- (6) 日印プロセス化学コンファレンス準備状況が塩入孝之名誉会長より報告された。
ICC との合同会、所: Ramada Plaza Palm Grove (Juhu Beach in Mumbai)
2014 年 1 月 29-31 日(水-金)
日本側参加登録費(招待講演者も): 10 万円
日印から合計 20 程度の招待講演、インド側からは製薬以外にも農薬、ポリマー関連の講演を予定、学会の前後に現地企業・研究所の見学を予定。
参加予定人数: インド 80 名、日本 25 名程度
開催費用は 500 万 Rs. 程度で参加者数に応じて負担する。即ち、日本側で 1/4 程度の負担となる予定。
インド側は Hikal 社の Dr. Nagarajan, Dr. Ekkundi が取り纏めている。
- (7) 日本薬学会第 133 年会(横浜)シンポジウム実施報告が日景尚睦将来計画委員長よりなされた。立ち見が出るほどの盛況ぶりであった。
3/28 15:30~17:30、「アート(技)を感じる医薬品のプロセス化学」、3 名の講演。

- (8) 日本化学会（南草津）シンポジウム実施報告が秋山隆彦理事よりなされた。
日本化学会では初となるプロセス化学のシンポジウム、5名の講演。
立ち見が出るほど好評であった。
- (9) 地区フォーラム報告が左右田茂副会長よりなされた。
東四国地区：2012年度に3回のフォーラムを実施した。2013年度も6/15に第1回目を実施済みで、参加者は100名超、学生も多く参加しており、非常に活気のあるフォーラム。第2回（10/12）、第3回（1/11）を2013年度に実施予定。
鹿島地区：2012年度は1回のフォーラムを実施した。2013年度は、現在のところ具体的な開催計画はない。
- (10) JSPC表彰委員会報告が左右田茂副会長よりなされた。
- (11) 編集出版委員会報告（資料3）が塩入孝之編集出版委員長よりなされた。
1) 間瀬理事編集の「実践プロセス化学」：現在第2校。7月下旬に校正終了、8月中旬に完成予定。本体3,500円+税。学会で600冊買い上げて、正会員に1冊、賛助会員に2冊配布予定。
2) 橋本監事編集の「プロセスケミストのための化学工学（仮題）」：執筆者選定中
3) 有機合成化学協会/日本プロセス化学会 共同企画
2013年1月と6月に編集委員会を開催。企業・大学における研究開発の成功例、体験例と、企業が大学に求める課題を主題にする。プロセス化学に馴染みが少ない若手研究者や大学院生が対象。秋ごろを目途に第3回委員会を実施、執筆者の選定を行う。
- (12) その他 出前講義（資料4）、会員現況（資料5）が富岡会長より報告された。
積極的に出前講義を活用して頂きたい。

2 協議事項

- (1) 2012年度（2012年4月1日～2013年3月31日）決算案（資料1）が承認された。
- (2) 2013年度予算案（資料2）が承認された。
プロセス化学ラウンジの事業費が年々増大しており、見直しが必要である。
学会出版物購入費の250万円は間瀬理事編集本の購入費用。
- (3) 2013年度通常総会次第案（総会資料）が承認された。
- (4) 2013サマーシンポジウムJSPC優秀賞選考委員の選出が承認された。
大学、企業から各4名ずつ、計8名の選考委員を選出した。
選考委員長は受賞者発表時に選考理由と選考委員を公表する。
選考委員の所属からは優秀賞を選出しない内規だが、例えば委員の各々の所属演題への投票のみを制限するなど、内規の見直しがあっても良いのではとの意見が出され、今後の検討課題とする。
大学からの発表申込が多いが、内規では企業2、大学1となっており、これを目指す。
- (5) 2013 ウィンターシンポジウム（寺田プロジェクトとの合同シンポジウム）の実施が承認さ

れた。

- (6) 2015 3rd International Symposium on Process Chemistry (ISPC)が承認された。
京都国際会議場 July 13 (Mon)-15 (Wed) 2015
2013 年中の演者選定を目指す。
理事全員が組織委員であり、大学 2 名、企業 3 名の講演者候補を選び 8 月末までに富岡までメール連絡を頂きたい。
- (7) 日本薬学会第 134 年会シンポジウムについての方針が議論され、意義を再確認した。
・当学会設立当初はプロセス化学の周知のために実施してきたが、現在は認知度も高まってきたとは言え、現在でもメドケム希望者の方が多く、プロセス化学の認知度向上を目指したシンポジウムには意義がある。
・薬学会、化学会どちらもプロセスシンポジウムの若い聴講者が非常に多い。プロセス化学の振興には大いに意義がある。
・薬学会という別の学会の中でプロセス化学会を開催するような形になっている。あくまで薬学会のシンポジウムの一つに、学会が全面的に関わるのは如何なものか。
(旅費は出るかとプロセス化学会に問い合わせが来た。主催は薬学会なのでお断わりしたが、この辺りの線引きは、はっきりさせるべきである)
・他の学会内のシンポジウムに関わる際には、プロセス化学会としてのスタンスをはっきりさせるべきである。
- (8) 日本化学会シンポジウムについては計画はない。
- (9) 地区フォーラムの実施が承認された
- (10) その他、出前講義の益々の実施が承認された。

理事会終了後、つくば国際会議場 1F「レストランエスポワール」において情報交換会が開催された。

文責 富岡 清

資料1

資料2

資料3 編集出版

医薬品プロセス化学の実践ガイド（仮）：校正中

有機合成化学協会との合同企画：第1回の委員会開催

資料4 出前講義：医薬品のプロセス化学

2013 3件 170冊（本日現在）

2012 7件 375冊

2011 4件 180冊

2010 6件 250冊

2009 4件 213冊

2008 7件 562冊

2007 3件 90冊

2006 14件 620冊

2005 3件 300冊

資料5 会員入会状況 賛助会員116社 正会員396名 学生会員44名